

2020年 石本正生誕 100年

アフロディア

「星空の月火美人」 2012（平成24）年（部分）

【石本正記念展示室・企画展示室「夢をえがいて」より】



石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS
Summer 2020
No. 144

夢をえがいて



《星空の月火美人》2012（平成24）年

思い出やあこがれ、夢、空想などが、ぼくの絵をつくりあげている。

幼少期から空想に遊ぶことが多かった石本正（1920－2015、島根県浜田市出身）。自然豊かな石見の地で育まれた想像力と類稀な感性は、戦後の日本画壇に新風をもたらしました。

また、あこがれの美術作品をはじめ、音楽や小説、映画など…いろいろなものを吸収して蓄積されたイメージは、作家となって絵に向かうとき、ふと脳裏に去来し、絵を描く原動力となりました。常識の枠にとらわれず、自由な心で描かれた作品63点を3つのテーマに分けてご紹介します。



2020 3.24 [火]

→ 8.30 [日] 会期延長

I 思い出

最初に紹介するテーマは「ふるさとの思い出」です。自然の中で遊ぶことが好きだった石本少年にとって、虫も魚も鳥もみな友達でした。こうした少年時代の思い出が今に重なり、作画につながっていると、のちに画家は語っています。

そして二〇〇一年、自身が心を込めて描いた作品を収蔵・展示する美術館が故郷にできたことをきっかけに、ふるさとの思い出から着想を得た作品が次々と生まれました。

右の『ぼっこう』もその一つです。石見弁で“がさご”を意味する「ぼっこう」。これを描くきっかけとなつた出来事は、美術館開館の半年ほど前にさかのぼります。ある日、京都に住んでいる石本の自宅に、ふるさとの三隅町からぼっこうが送られてきました。それを見て、子どもの頃の思い出がよみがえり、何枚も何枚もスケッチしました。描くときにはぼっこうの口を爪楊枝で支えるようにして開き、日にちが経つて傷んでも気にならないほど夢中で描いたといいます。それ以降ぼっこうをテーマにした作品が生まれました。そこには、ふるさ

とや未来に対する画家のある願いが込められています。

口を大きく開けたぼっこうのように「ふるさと」が何もかも飲み込み、新しい文化を創つて欲しい」「絵を描く人にも、色々なものを飲み込み、常に新しいものを創つて欲しい」。

こうしたぼっこうをテーマにした作品は、二〇一五年に画家が九十五歳で亡くなる前年まで制作されました。



《ぼっこう》展示風景

《ぼっこう》
2000（平成12）年

II 自由な心で

女性や鳥、花に風景…。これまで様々
なモチーフを描いてきた石本ですが、何
ものにもとらわれない自由な発想で、自
身の夢や空想をえがいてきました。

現実の対象を描きながら、異なるイ
メージを重ね合わせ、自分の空想と戯れ
るように絵の中で物語を紡いでいく。こ
こではそんな「自由な心で」描かれた作
品を中心に展示しています。

これまで鳥の作品を多く描いた石本で
すが、ただ単に鳥そのものを描くのでは
なく、その姿に人間のイメージを重ね合
わせたような作品がよく見られます。

一九六三年制作の《副官鳥》(右)もそ
の一です。「副官鳥」は「ウノトリの
一種で、南方に多く生息する鳥です。石
本はその鳥の姿から、マントを着た学者
のような人物がじっと考え方をしている
イメージが浮かんだといいます。
そして、背景に描かれているのは信州・
尾瀬の水芭蕉。暑い地域にすむ鳥が寒い

湿地に立つてはいるという、現実にはあり
えない光景でも「自分の空想だからかま
わないのだ」と語りました。



《副官鳥》1963（昭和38）年



《巣》1959（昭和34）年 個人蔵
まるで人間のようにユーモラスな表情としぐさが印象的な
フクロウの作品。

III 去来する イメージ

音楽・文学・古典美術など

「いつもモデルと対象を見るとき、いろいろなも
のが見えてくる。それは音楽であったり、文学
であったり、彫刻であったり、または古い映画
の一コマであったりさまざまであるが、そういっ
たものが瞬時に頭をかすめていくのである。」

最後のテーマは、音楽や小説、憧れ
の美術作品等のイメージを重ねて描い
た作品群です。

日本だけでなくヨーロッパのロマネ
スク美術を始め、世界各地の美術作品
に深い造詣を持っていた石本。自身が
感動した作品のイメージを、いつまで
も鮮明に覚えている並外れた記憶力の
良さは、美術評論家の故・富山秀男氏
から「映像記憶の貯蔵庫」と称賛され
るほどでした。

そして、一九
六四年に初めて
イタリアを訪れ
て以来、何度も
ヨーロッパを旅
しました。その
中でローマの
ヴィラ・ジュリ
ア国立博物館に
ある「半臥夫妻像の陶棺」(前520年頃)
右の《浄心》は、裸婦デッサン(左)
をしていて、右の《浄心》は、裸婦デッサン(左)
をもとに描かれた作品です。



《半臥夫妻像の陶棺》(前520年頃)
ヴィラ・ジュリア国立博物館(ローマ)



《裸婦》1991（平成3）年
「このモデルは手足の長い美しい人だった、
その美しい手足がエトルスクの棺のイメージ
と重なった」 石本正



《浄心》1991（平成3）年

「伝える」ということ

—臨時休館中の舞台裏—

はじめに

二〇二〇年四月十四日（火）

六月一日（月）。石正美術館は、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に伴い、約一ヶ月半に及ぶ臨時休館を行いました。

本来であれば、お客様に「絵を見ること」を楽しんでいたがゆ所であるはずなのに、「絵を見に来ていただけない」どころか、「不要不急の外出をしてはいけない」時期。この状況下で「館としてできることは何か」「今後すべきことは何か」を、平時はそれぞれの持ち場に分かれて働く職員全員が集まり、知恵を出し合つて試行錯誤を重ねていました。その中で気づいた「伝える」ことの大切さと難しさを、臨時休館中に行つた様々な取り組みとともにご紹介します。

1 「館としてできること」は

「現地で本物を見る」と重要な視し、長年憧れ続けた中世ヨーロッパ美術をめぐる長期旅行を何度も行つた石本正。そんな彼の精神を、作品を通して伝えてきた当館にとって、「絵を見に来てください」と言えない臨時休館中は、やるせない日々が続いていました。

臨時休館の長期化に伴い年間スケジュールを見直し、会期の延長、展覧会の延期・中止…。そんな中、県外にお住まいの常連のお客様から「作品を見に行きたいけれど正」というコラムを連載しました。これは「普段の美術館ではこんなに近寄つて見られないよ」という発想で、クローズアップした作品写真を交えながら、細部に込めた「伝える」ことの大切さと難しさを、臨時休館中に行つた様々な取り組みとともにご紹介します。



①展覧会紹介動画のネット配信

ありがたいことに当館では、展覧会ごとに地元のケーブルテレビ局で紹介番組を制作いただいていました。そのため検討後すぐに、浜田市の公式YouTubeチャンネルを介してインターネット配信を行うことができました。

本物を見たいけれど見られない方へ、せめてご自宅で一時でも暗いニュースを忘れる時間を提供できたら。開館後に、ぜひ本物を見に来ていただきたいとの願いも込めて。

作品紹介以外に、ご自宅で創作の喜びに触れるお手伝いができますと、次の二つを行いました。

一つ目は、過去好評だったワーケシヨップの「作り方」の公開です。ちょうど休館中となつてしまつた『こいのぼり作り』で賑わう予定でした。休校で時間を持て余す隅町の伝統工芸品・石州和紙を使った『こいのぼり作り』で賑わう予定でした。休校で時間を持て余すお子さんもおられると知り、せめてご自宅でものづくりを楽しむ機会になればとHPで作り方をダウロードできるようにしました。

また、職員のスキルを結集してあえて精巧・細密な表現に挑戦できる「別品ぬりえ」を製作しました。石本先生の舞妓作品をもとに、丁寧に手描きで線を描き起こし、スキヤナで読み込み。パソコンを使つて着物の絞りが塗りやすいよう工夫をしてから、色鉛筆画が得意な職員が原画を参考に着色しました。制作工程を記録し、完成見

②SNSで作品紹介

これまで公式HPとSNS（フェイスブック）を活用して情報発信をしてきた当館。特に即時性の高いフェイスブックから、日々の生活の中で気軽に作品に親しんでいたけるよう「ズームイン！石本正」というコラムを連載しました。これは「普段の美術館ではこんなに近寄つて見られないよ」という発想で、クローズアップした作品写真を交えながら、細部に込められた画家のこだわりについてお伝えするというものでした。作品の魅力が伝わる写真の撮り方、肩

③「おうちでミュージアム」

肘張らずにお読みいただける文章を心がけ、「画面の向こうのお客様にお届けする」という気持ちで更新しました。

作品紹介以外に、ご自宅で創作の喜びに触れるお手伝いができますと、次の二つを行いました。

一つ目は、過去好評だったワーケシヨップの「作り方」の公開です。ちょうど休館中となつてしまつた『こいのぼり作り』で賑わう予定でした。休校で時間を持て余す隅町の伝統工芸品・石州和紙を使った『こいのぼり作り』で賑わう予定でした。休校で時間を持て余すお子さんもおられると知り、せめてご自宅でものづくりを楽しむ機会になればとHPで作り方をダウロードできるようにしました。

また、職員のスキルを結集してあえて精巧・細密な表現に挑戦できる「別品ぬりえ」を製作しました。石本先生の舞妓作品をもとに、丁寧に手描きで線を描き起こし、スキヤナで読み込み。パソコンを使つて着物の絞りが塗りやすいよう工夫をしてから、色鉛筆画が得意な職員が原画を参考に着色しました。制作工程を記録し、完成見

本とともにご覧いただける「マイキング」と、ダウンロード可能な塗り絵のデータをHP上で公開。また、ネット環境に無い方にもご利用いただけるよう、定期発行しているミュージアムニュースの紙面を割いて掲載もしました。

これらの取り組みは、在宅での創作活動を紹介する全国の美術館・博物館の情報を取りまとめた、北海道博物館さん主宰の「おうちでミュージアム」という事業とも連携し、情報発信をしました。

2 開館に向けての取り組み

①受付表示物・誘導サイン

作品保存の観点から、温湿度の管理が欠かせない美術館。ここで我々の頭を悩ませるのが「三密（密集・密接・密閉）」の壁です。空調管理に気を付けながら排気を行つてはいるものの、展示室に窓はなく、文化財害虫の侵入を防ぐという点からも自動ドアを常時開放することはできません。とはいえ、静かに絵を見るのが目的の場所なので、マスクの着用や他のお客様との距離を保つお願いを掲示することで落ち着きました。

そして、実際にお客様目線で展示室を回つてみたところ、気になつたのは作品横にある解説キヤปションでした。読む際には近づかなければならず、その場合ほかの方と「密接・密集」の可能性があります。それを避けるために導入したのが「スマホ解説」でした。

これは、展示室に掲示したQRコードをお客さまご自身のスマートフォン等で読み取れば、お手元で解説をご覧になれるというもので、こちらが「伝えたい」情報を、どうすればお客様に分かりやすく「伝えられる」か。受付職員を中心何度もシミュレーションをして改良を重ねました。

②鑑賞環境

作品保存の観点から、温湿度の管理が欠かせない美術館。ここで我々の頭を悩ませるのが「三密（密集・密接・密閉）」の壁です。空調管理に気を付けながら排気を行つてはいるものの、展示室に窓はなく、文化財害虫の侵入を防ぐという点からも自動ドアを常時開放することはできません。とはいっても、静かに絵を見るのが目的の場所なので、マスクの着用や他のお客様との距離を保つお願いを掲示することで落ち着きました。

には有効だと思います。

ただ、肝心の作品を見ることよりも、手元の解説を読むことに意識が偏りがちな側面もありますので、あくまでも感染予防のための非常措置かな、とも思いました。

③教育普及

開館後の学校利用に備え、団体鑑賞時の想定もしました。従来であれば、一つの作品の前で児童全員に向かって話をするスタイルでしたが、学芸員二人で手分けをして少人数のグループに分散し、可能な限り密集を避けることにしました。

そして、感染防止対策として今回新たに導入したのが、鑑賞用のワークシートです。これまで、一時間半の滞在であれば、作品三四点の解説と自由鑑賞が主でした。しかし、たとえマスクをしていても「対面での会話を控える」ことが求められる現状。解説する作品を一点に絞り、その後の自由鑑賞では子どもたちが自分で「観て・感じて・考える」ワークシートを作成することにしました。

今のところ当館は、ゆつたりとご鑑賞いただける状況ではありませんが、今後感染予防に配慮しながら大勢のお客さまをお迎えする際

分の作品を教材として使つてもいい」と言つてくださつたのです。先日、市内の小学校の児童たちを受け入れましたが、模写の時間があることで、結果的に一人で静かに絵と向き合う姿が多く見られました。

おわりに

臨時休館を経験して、改めて「伝える」ことの大切さと難しさを感じました。インターネットは確かに便利で、これを通して伝えられることがありますが、やはり直接「本物」を見ないと伝わらないもの、伝えられない感動があると思います。そしてそれを伝えるには、安心して作品を見に来ていただけの環境が必要だということも。刻一刻と変化する情勢。誰も経験したことのない事態。手探りしながら「伝える」ことを続けていきたいと思います。

(学芸員 上田 優里)

こどもも大人も
石正美術館で
アートを楽しもう！

アートな
夏休み
&秋

ワークショップ



夏休みこども木工教室

13時～15時 参加費:500円

講師:西田清久さん(木工房きなり)

定員:10名(要予約)

木にさわって、ながめて、自由な発想で自分の作品をつくりてみよう。
木肌を活かしたり、カラフルに色を塗ったり、アイデア次第で面白い作品ができるはず！夏休みの宿題にもバッチリです。



昨年度の様子

- ・小学校3年生までは保護者同伴でご参加ください。
- ・今回の木工教室は屋内(創作室)にて小物づくりを行います。タオル、飲み物、工作用に軍手などをお持ちください。

ギャラリー展示



絵手紙横丁展

8.1 土 → 8.10 月・祝

9時～17時

休館日: 8/3 (月)



絵手紙は「ヘタでいい、ヘタがいい」
そんな魔法の言葉に導かれ、楽しく制作に取り組んできた絵手紙教室の皆さんによる展覧会です。
個性あふれる絵手紙が並ぶ「横丁」を、
どうぞゆっくり散策下さい♪

スイーツデコ
「メモスタンド」

①13時～13時20分

②13時30分～13時50分

③14時～14時20分

参加費:500円

講師:琴野和世さん(アトリエカロス)

定員:各回9名(要予約)

メモスタンドの木製の台座を、スイーツねんどを使って可愛くデコレーションします♪
おいしそうにできるかな？

本体サイズ:
クリップ含め高さ約12cmビーズと小花の
コサージュ作り

13時～15時30分 参加費:1,500円

講師:ちくちく(三隅町) 定員:12名(要予約)

持ち物:裁縫道具(針、糸、はさみ)

好きなビーズを気ままに刺し、和布を巻いて作った小花をそえるコサージュ作りのワークショップ。
ふだん手芸をされない方でも、気軽に参加していただけます♪

本体サイズ:
直径約7cm
小箱付き

SCHEDULE

石正美術館スケジュール

石本正 記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
7	石本正「夢をえがいて」	6.9 火 ↓ 7.26 日 令和1年度 石正美術館 絵画教室作品展 【入場無料】	8.8 土 13時～15時 夏休みこども木工教室 講師：西田清久さん（木工房きなり） 参加費：500円 定員：10名 ※小学3年生までは保護者同伴でご参加ください。 持ち物：タオル、飲み物、工作用の軍手など
8		8.1 土 ↓ 8.10 月・祝 絵手紙横丁展 【入場無料】 出品： 坂口みどり（日本絵手紙協会公認講師） &素敵な仲間 えらひめ・堂ヶ花・ ふきのとう・はなみずき・ ひまわり・（井田まちづくり）	8.22 土 ①13時～ 13時20分 ①13時30分～ 13時50分 ①14時～ 14時20分 スイーツデコ「メモスタンド」 講師：琴野和世さん（アトリエカロス） 参加費：500円 定員：各回9名
9		8.31 月 → 9.7 月 展示替休館	CLOSED
10	「絵を描くということ」 石本正 描 第 い 10 た 回 日 石 本 画 に 州 和 紙 に	9.19 土 ↓ 10.25 日 [特別展示] 石正美術館 プレイバック vol.1 【入場無料】 9.21 月・祝 敬老の日 65歳以上 観覧 無料 通常 600円の 観覧料を無料に！ 企画展 「石本正「絵を描くということ」 第10回 石州和紙に描いた日本画展」 ※年内に65歳になられる方（昭和30年12月31日以前に生まれた方）も含みます。 年齢確認できるもの（運転免許証や健康保険証など）をご持参ください。	9.19 土 10.10 土 11.21 土 14時～ 約45分 【石本正「絵を描くということ」関連イベント】 ギャラリートーク & 天井画鑑賞ツアー 参加費：観覧料のみ
			9.26 土 13時～ 15時30分 ビーズと小花のコサージュ作り 講師：ちくちく（三隅町） 参加費：1,500円 定員：12名 持ち物：裁縫道具（針、糸、はさみ）

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館)

展示替え期間

(令和2年8月31日(月)~9月7日(月))

観覧料 一般 600円 (団体 500円)

高校・大学生 300円 (240円)

小・中学生 200円 (160円)

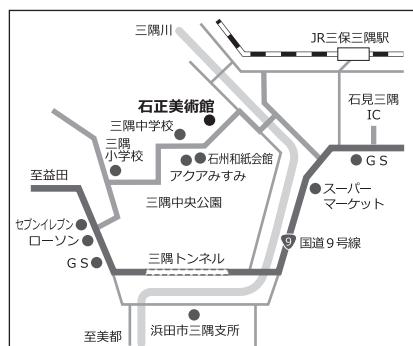
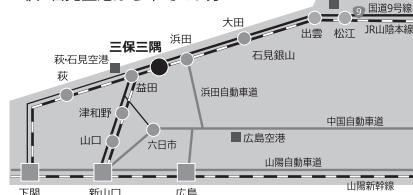
※20名以上は団体料金。

※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。

※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICから車で20分
- 山陰道 石見三隅ICから車で3分
- 萩・石見空港から車で40分



石正美術館 ミュージアムニュース

アフロティア

No.144

Summer 2020

令和2(2020)年7月21日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589

TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

石正美術館

検索

f 「浜田市立石正美術館」で検索



生誕100年回顧展 石本正 会期変更のお知らせ

今年、石本正先生の生誕100年を記念して全国巡回を予定しておりました「生誕100年回顧展 石本正」は、新型コロナウイルス感染拡大による休館等の影響により、各会場すべて会期を変更することとなりました。

変更後の会期(予定)

今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況、会場の都合により変更になる場合があります

◆会期・会場◆

4月2日(金)~
5月24日(月)

島根県立美術館(松江市)

9月11日(土)~
10月24日(日)予定

一宮市三岸節子記念美術館
(愛知県)

10月30日(土)~
12月19日(日)

浜松市秋野不矩美術館
(静岡県)

1月25日(火)~
4月10日(日)

浜田市立石正美術館

※2020年6月時点

- ◆主催◆ 開催美術館、朝日新聞社(静岡会場以外)(ほか)
- ◆特別協力◆ 浜田市立石正美術館
- ◆協賛◆ NISSHA株式会社(全会場共通)



石本正「のれん」1970(昭和45)年 個人蔵

「石正美術館を安心してご利用いただくためにー」 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

【ご利用のみなさまへのお願い】

- マスクの着用をお願いします。
- 発熱・体調不良の方は利用をご遠慮ください。
- 入館時に検温を実施します。
- 入館時に手指のアルコール消毒をお願いします。
- 距離を空けてご利用ください。
- 大声での会話はご遠慮ください。
- 大人数での来館はご遠慮ください。
- 来館者連絡先カードの記入をお願いします。

【館内の対策】

- アルコール消毒液を設置しています。
- 職員はマスクを着用して対応します。
- 受付に飛沫防止アクリル板を設置しています。
- 混雑を避けるため、入場制限を行う場合があります。
- 来館者連絡先カードの記入をお願いします。
(保健所等の行政機関による聞き取り調査等にご協力いただく場合があります)